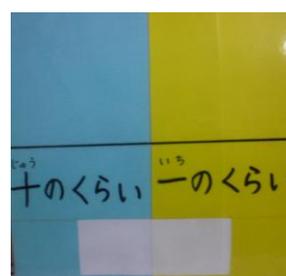
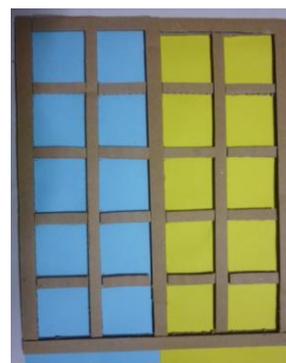


## 平成 23 年度 香算研新春研修会「教材」ワークショップ資料

部会	学年	教科書, 単元名	提案者
下学年部会	1 年	啓林館 「大きい かず」	

領域	A 数と計算
概要	十進位取り記数法により 2 位数を書き表す。このとき、一や十の単位の大きさを表すのに、位置の違いを利用することの理解を深める必要がある。そこで、一の位に『ばら』が 10 個たまると、『10 のまとまり』を作り、すぐ右の十の位に『10 のまとまり』を 1 個置いていく操作を通して、一の位や十の位の意味を深めることができる。
作り方	<p>〈作成の手順〉</p> <p>① 枠を貼り付ける台紙には、一の位と十の位とが区別しやすいよう、違う色の紙を使って貼り合わせる。</p> <p>② ①で作った台紙の上に、牛乳びんの栓（直径約 3.5 cm）が入る枠を作成する。1 枚の栓を出し入れしたり、栓を 10 枚重ねて貼り合わせたものを乗せたりするのに適した厚みのある枠が適当であるため、薄めの段ボールなどを利用する。</p> <p>③ ①と同じ色の台紙で、『10 のまとまり』の数や『ばら』の数を書くための場所や『十のくらい』・『一のくらい』と書いた場所、白い紙で 2 位数を書く場所を作り、ラミネートする。</p> <p>④ 牛乳びんの栓を 10 枚貼り合わせたものを作り、1 番上に『1』と書く。また、ばらの栓にもすべて『1』と書く。</p>



<p>使い方</p>	<p>場面（単元内）：2 位数を十進記数法で書き表す方法を考える場面                  場面（授業内）：『10 のまとまり』を作り、『ばら』のすぐ右の場所（十の位）に移す場面</p> <p>① 子どもに『10 のまとまり』を作らせ、『ばら』のすぐ右の場所（十の位）に移させる。                  ② 『10 のまとまり』を置く場所（十の位）と『ばら』を置く場所（一の位）との違いを意識させる。                  ③ 十の位には『10 のまとまり』が、一の位には『ばら』が、それぞれいくつかを数えてその数を並べて書き、2 位数の書き方を理解させる。</p>
<p>期待される効果</p>	<p>『10 のまとまり』を作ることで既習事項を活用することのよさを味わうことができる。また、それを繰り返す操作により、さらに『10 のまとまり』が10 個まとめるとさらにその右側に百の位を作り、そこに繰り返すことを予想させることができる。</p> <p>また、『10 のまとまり』がいくつということと十の位がいくつということをつなげることで、十進記数法の理解を深めることができる。</p>
<p>「指導」の際の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栓を重ねたままで『10 のまとまり』を十の位に移すことができるように、平面で操作して教材提示装置で提示する。</li> <li>・『10 のまとまり』や『ばら』を置く位置を確認し、それぞれ『十のくらい』や『一のくらい』と呼ぶことを教え、子どもがお互いに問題を出し合うなど、話し合い活動につなげる。</li> <li>・『10 のまとまり』や『ばら』がそれぞれいくつかを考えて書き表すことになれてくると、数え棒など違うものでも同様にできるようにする。</li> <li>・一の位が0 になる場合の例を示し、既習の何も無いことを0 と書き表すこととつないで、『ばら』が0 だから『一のくらい』は『0』と書き表すことに気付かせる。</li> </ul>

